銭座小　学校だより

つながる心

～学校教育目標～
みんなの笑顔 つながる心 未来をひらく

令和８年５月１４日　第９号
発行者　校長　山本 高靖

フェスティバル（お祭り）のような運動会を目指して

私は今年度の４月に着任したので、昨年度の銭座小の運動会をよく分かっていませんが、得点や団体優勝のない運動会というのが本校の特徴です。得点や優勝の賞状が無くても盛り上がり、児童が満足のいく運動会になっていると聞きました。この話を聞いて、私は銭座小らしいなぁと感心し、今年の運動会がとても楽しみになりました。

よく考えると、国が示す学習指導要領においては、体育科の大きな指導改善事項として、「全ての児童が、楽しく、安心して運動に取り組むことができるようにし、その結果として体力の向上につながる指導等の在り方について改善を図る。その際、特に、運動が苦手な児童や運動に意欲的でない児童への指導等の在り方について配慮する。」と掲げられています。

また、「運動やスポーツとの多様な関わり方を重視する観点から、体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるよう指導内容の充実を図ること」とも示されています。

ですから、「フェステバル（お祭り）のような運動会が実施できれば、運動が苦手な児童や運動に意欲的でない児童も、結果として、体育科の目標である『運動に親しむこと』、『健康の保持増進と体力の向上を目指すこと』、『楽しく明るい生活を営む態度を養うこと』の達成に近づくと言えるでしょう。

そこで、本校では今年もフェステバル（お祭り）のような運動会を目指すとともに、次のような工夫も新たに加えました。

★ 昨年度までは全児童が「短距離走」に出場していましたが、運動の多様な楽しみ方を共有できるように、今年度は２年生以上において、「かけっこ・短距離走」か「チャンス競技」のどちらかを各児童が選択し、選んだ１種目に出場することと変更します。（これ以外の種目は、前年度同様に各学年で「表現」「団体競技」「リレー」の３種目の中から、学年として２種目選択し、実施します。）

もちろん、チャンス競技をはじめ、表現以外の競技には必ず勝敗がつきます。体育科では、「できるだけ多くの児童に勝つ機会が与えられるように指導を工夫するとともに、その結果を受け入れることができるよう指導することが大切」ともあります。負けて学ぶこともたくさんありますよね。

運動会の取組を通して、頑張りたい、できるようになりたいなどの意欲を高めつつ、楽しく運動に親しむことのできる資質・能力の育成を図っています。皆様の応援、どうぞよろしくお願いいたします。